

美祢市総合計画審議会 観光産業部会 議事録

日時：令和元年6月19日（水）18：30～20：30

会場：美祢市民会館2階 第1会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	部会長	一般社団法人 美祢市観光協会	水谷 雅哉	
2	副部会長	美祢市議会	猶野 智和	
3		カルスト森林組合	高須 修三	
4		連合山口美祢地区会議	永井 政夫	
5		公募	梶岡 秀吉	
6		公募	植山 正雄	
7		美祢市議会	竹岡 昌治	
8		山口美祢農業協同組合	山本 善継	欠席
9		美祢市商工会	内藤 正太	欠席
10		美祢市定住促進協議会	永谷 青空	欠席

<資料>

次第

基本計画及び総合戦略体系案

第二次美祢市総合計画基本計画（素案）観光・産業部会

第二次美祢市総合計画総合戦略（素案）観光・産業部会

1 開会

～資料の確認～

2 会長あいさつ

～水谷部会長ごあいさつ～

3 議事

(1) 第二次美祢市総合計画基本計画観光産業部会（素案）について

事務局より説明：素案については各所管課に2回照会し、訂正しとりまとめたものである。それに対するご意見を願います。基本計画の構成は、上から現状と課題、今後5年間の方向、主な取り組み、目標指標と関連する項目となっている。取組の方向と主な取組についてご議論を賜りたいと考えている。目標指標については現在とりまとめ中であり、1

つの取組につき1指標をベストな構成と考えているので、それについては次回ご提案をさせて頂く。今回の取組の方向と主な取り組みについては、簡潔明瞭にしている。具体的に深く書かない。詳しくしてしまうと、それに5年間しばらくされてしまうこと、また、時代が変化しているため、それに柔軟に対応できるようにということによってしている。

～事務局から資料説明～

委員：3ページ、インバウンドに対してアウトバンドがあるが、これはどう意味があるのか。

事務局：アウトバンドに取り組むべきではないかということ。

委員：何を中心に考えられるのか。

事務局：もうひとつの総合戦略の中で、国も県も市も5年間の第1期総合戦略を終えようとしている。第2期の国が行う総合戦略の基本的な方針がいま示されている。国の中では、当然オリンピック・パラリンピックもあってインバウンドが何千万という世界なので、それに対応してアウトバンドについても国の方針の中にも記述があったかと思う。美祢市にとっても台北観光交流事務所を持っている関係で、台湾が互惠平等という、こちらでしたことは相手にも求めるという考えで、美祢市としてもアウトバンドを考えていけないといけない立場にはある。市の市民研修として、一般の方を2年前くらいに台湾にツアーを行っていたこともあるが、今後美祢市がアウトバンドを市単体で行っていくのは少し難しいかもしれないので、実施計画なり、下の計画に入れるのはいいが、基本計画のような大きな計画の中には入れない方がいいかと市の判断で思っている。

部会長：観光というとインバウンドとアウトバンドがあると思う。アウトバンドのねらいは、その人の人材育成や教育のために出すなど、単なる観光のために出すということではないと思う。そこで行政がどう関わるかだと思う。

事務局：行政の立場から観光を進めるということにはならないと思うので、台湾の大学と交流をするだとか、経済の交流を行うだとかして連携をしていくかと思う。その部分をアウトバンドと言えるのかどうか、記述としては避けたほうがいいかもしれない。

部会長：経済として売り込みに行くのもアウトバンドになる。純粋な観光旅行というのはなじまない。

委員：インバウンドのイメージはわかりやすいが、アウトバンドを調べると電話戦略もアウトバンドといえど記載があったので。

委員：秋吉台と秋芳洞など観光資源があるわけだが、わたしも久しぶりに秋芳洞に入ってみたが、平日だったのでお客さんも少なく商店街もしまっていた。来た人たちが楽しめるような整備や環境をどう変えるのかが非常に重要と思う。せっかく来たなら、秋吉にはこういういいところがあるということを知ってもらうのが少し足りない気がする。この前きた外国人も会話できる人がいないと帰るということもあったので。平日空けている人はわずかしかなかったもので、そこら辺をどうにかしないと観光振興は広がっていかないと思う。どうやったら盛り上げていけるのか、まずは入口のところで、そういった観点を考えていかないといけないと思う。

事務局：どちらかという観光産業についての話かと思う。第1次美祢市総合計画の中では観光産業を観光の振興の計画の中に入れ込んでいる。前回は、将来像や基本理念の承認をいただいたところ。基本的な方向性はご承認頂き、美祢の宝の創造、挑戦、大地を生かしてみんなで磨く。この本質が見えにくいということで言葉の修正の宿題を頂いているところ。なにを意味しているかということ、観光と産業の活性化が中心かと思う。そうい

った意味で観光産業は、この基本計画の19ページ産業分野に入れ込んでいる。秋吉台の商店街は民が主導なので書きづらい部分はあるが、この中で20ページの道の駅などの活性化で、そういった施設の機能強化のところで、もう少し商店街についても匂わせるように、若干加えるように修正をしていきたいと思う。

部会長：わたしが日々観光振興に関わる中で、大きく分けて2つあると思う。1つは、受け地整備。受け整備をいかに観光客目線でやるかだと思う。商店街の話など、当事者を含めて自分ゴト化してしっかり話していかないといけない。それと、もう一つは、そうやってよくしたものをどうやって外に伝えるのか。受け地整備と、中のものをどうやって外に伝えるのか、この2つが観光振興なのかと思う。その理念をみんなで共有しておくというのが大切。

事務局：もう一点申し上げるとすれば、観光振興課を中心にして、この2年間で秋吉台地域全体の施設の再配置計画ができあがっている。それに基づいて、今後施設改善などを図っていくということは、これまでの点から面で方向を考えるということになっていくと思うので、商店街をどうしていくのかという面としての考えは、今後民と共有されていくものと考えている。

部会長：ただ実際にやるのはご本人たちなので難しいところ。

委員：なかなか個々という話が全面に出ると地域振興は進まない。どなたかが引っ張っていかないといつまでたっても変わらない。最近、境港の水木ロードを見たが、お店に特徴があった。それにお客さんが来ているのをみると、必ずしもきちっとした手法がなくても、少し工夫すればいろんなことが出来るのかと思う。美祢市は財産があるのに活かしきれていないのではと思う。

部会長：わたしもここに来て1年7ヶ月くらいだが、よそ者目線でどうやってそれを変えていくかっていうところかと思う。

委員：若い人の目線が大切かと思う。そういう知恵を出していけばいいものができていくのでは。

部会長：おっしゃった通り、誰がやるのかということかと思う。

委員：キャッシュレスについては、どこかに記載はあるか。

事務局：3ページの主な取組の中に入れてある。

委員：これは具体的にはどう進めようと考えているか。

事務局：昨年度、美祢市が総務省からIoTの活用の指定を受けた。何から取り組むかということ、美祢市の特徴あるものから進めて行こうということから、観光と教育を選んでいくところである。その観光の中のIoTの目玉がキャッシュレス。まずは秋吉台商店街を中心に進めて行く予定で、それだけにとどめるのではなく、商工会にも協議を行って市内のお店にも今後、外国人対応を進めていくところである。

委員：それはわかるが、個々に対してどう進めて行くのか。

事務局：まだ出来上がっていないので、ここに記述をして道筋を立てている。

委員：補助制度は考えているのか。

事務局：当然考えていくものと思うが。

委員：キャッシュレスはこの2年でやってしまわないと間に合わないのではと思っている。もちろんワイファイの整備が必須であるが。

事務局：委員が言われたように、簡単に無料でできるような、システムの紹介を先般業者から来られたのは覚えている。

部会長：ごっちゃになっていて、受け入れ態勢というのは、お土産屋さんはもちろんだが、ひよっとすると入洞のことを意味しているのかも。

委員：地域そのものが稼げないと意味がない。行財政がいくら黒字になっても意味がない。

事務局：長いスパンの計画にこれが馴染むのかどうか。

委員：キャッシュレスの質だと思う。手数料負担の問題もあると思う。韓国は9割がキャッシュレスで、日本は2割くらいですごく遅れている。インバウンドを意識されるならその基準でやっていかないと間に合わないと思う。

部会長：ここにキャッシュレスと書くと、そんな長いスパンでやるのかと思ってしまう。

委員：やはり外国人対応ができるのかどうかというのが一番大切。いかに受け入れられるか、その環境づくりかと思う。

事務局：5年間の基本計画で記述をしておくが、この下には実施計画がぶら下がってくるため、その実施計画の中にキャッシュレスの推進ということで、その取組の横棒をどこまで引くのか、5年間なのか1年、2年のものになるのか、そこはご注目いただければと思う。

委員：ワイファイがあれば言語も機械で済むので問題ない。

委員：なのでワイファイの整備は必須になってくる。

部会長：大雑把に書くといいながら、ここだけ殊更に細かいので違和感がある。キャッシュレスなどはもう当たり前の話なのかと思う。

事務局：キャッシュレス言葉を載せない方がいいのか。

委員：記載はあってはいいが、早急に取り組むべき。ワイファイとキャッシュレスは優先順位としてはかなり上だと思う。

事務局：ここの記述は簡潔にしたいため、現状と課題の中で、早急に取り組む必要があることなどを明記する方がよいかと思っている。

部会長：目標の指標について、捉え方が大きかったり、小さかったりしているのが気になっている。

事務局：指標については次回にさせて頂きたい。

～事務局から資料説明～

委員：秋吉台地域の観光がわりと有名で、昔からあったのが、教育旅行とかアウトドアとかで利用されることが多かった地域だが、極端に減ってきている。修学旅行自体をうけいられる施設もほぼなくなってきているが、秋吉台の周りはそういうのに非常に適したところと思うので、今一度そういったアウトドアや子供がきて体験をしていく場所としてこの地域が有名になれるような施策をぜひ打っていただきたい。ポケモンとかで、自然を壊さなくても秋吉台中を走り回れるものもある。ワイファイとかを使ってそういった近代的なものも合わせて、この広いエリアを活発化させてほしい。そういった子供たちと秋吉台の自然に着目した施策を打てないかという意見である。

委員：いまQRコードは何かやっているのか。

事務局：IoTの関係で今後外国人対応としてやっていくとは思っている。

部会長：データをとるための手段かと思う。どれだけ来たか等のマーケティング的なものとし

て。

事務局：マーケティングとしてそういったデータをバックとして取ることもあると思うが、多言語放送として、英語だと韓国語や中国語が聴けない状態になっているので、そういったサービスの改善をしている。

委員：シムでなくて、ワイファイにすればいいのではないか。シムだとそのキャリアがない人はとれなかったりするので、ワイファイだとそれが全部使えるので、簡単に取れると思うのだが。

事務局：その所管も当然それは考えていると思うが、一応伝えておく。

委員：VRとかでジオの成り立ちなどを説明するものもそれほど高くないと思う。ある程度エンターテインメント性の整備がいるのかと。

部会長：施策2で、関係人口化の推進、施策3でシティプロモーションの促進が出てきている。美祿市の場合は観光プロモーションと、シティプロモーションがごっちゃになっている気がする。表裏一体だと思っているが、シティプロモーションは、地域の人が自分たちの地域をよくして、どうやってそれを外に伝えていくか、地域づくりのところ。観光プロモーションは、地域資源をどうやって伝えていくかというところで、ニアリーイコールである。そこをもっと強く打ち出した方がいいかと思う。シティプロモーションと観光プロモーションの整理がついていないかと。

事務局：施策の体系表ですが、もともと一番下の安全なネットワークによる都市基盤づくりに、情報通信整備という取組施策を設けていた。そして今ある観光振興の中に、地域情報、観光情報の発信を設けていた。それと5番の行財政運営の一番下に、シティプロモーション、インナープロモーションの推進を当初は設けていた。しかし3つもあると分散してまとまりがないということで、7ページにあえて市政情報まで加えているのは、情報に関することはここにまとめて強く推進しようということ。ご指摘のように記述の内容が整理できていないのであれば整理していきたい。

部会長：書くところがもう少し上位でもいいのでは。取組の方向性のところで強くうたって、全体を貫くようにした方がいいのではと思う。観光で定住人口移住人口を増やすという、それはシティプロモーションだと思う。イコールになっている。あともう一つが、教育旅行、アウトドアについて話があったが、それは2・3番に含まれているのではないかとと思う。

事務局：いまの修学旅行の体験というと、海外に行かれる高校もあれば、国内で漁業体験であるとか、地域の田舎体験であるとか、子供たちがなんらかの学習する体験型の旅行が主立っているんで、この2・3番でももう少し修学旅行を感じられるような記載には工夫をしていきたいと思う。

部会長：補足すると、修学旅行に来る人が減っているのは、単純に子供の総数が減っていることと、デスティネーション競合が激しくなっているから。かつては都立高校生の9割が秋吉台に来ていたが今は沖縄になっている。あと、学校のレベルが上がっている。単なる見る教育旅行から、アクティブラーニングという指導要領が大きく変わってきていて、どうその生徒がここへ来てどう成長したか、どう変わっていったか、という修学旅行に変わってしまい、そういうところに力点が置かれるように変わって来てしまった。そこに耐えられるものにみんな行くという感じである。教育旅行自体が変わったと理解している。秋吉台は一步まだ出られてないのかと思うので、それを変えていく、打破できるのはジオパークと理解している。

委員：長野の飯田市というところが、ツーリズムで民泊をしている。東京の杉並区で一億の金を積んで長野に行き、田舎にお金が落ちる。それは農家のおばさん達がすごく魅力的で、子供にどんどん教育していくとか、それを体験して生き物や食べ物の大切さを学ん

で帰ってくる。登校拒否をしている人もそこにいれることで元気になっているらしい。その原因は、要は地元の観光協会がすごくしっかりしている。そこが引っ張っていき、受け入れるところもしっかりしている。

部会長：飯田市は農漁村民泊の発祥の地。協議会をきちんと立ち上げて、きちんと研修指導を受けて、受け入れ態勢もきちんとしている。山口県は結構強く、各自治体に協議体を作って、それをやるという地域の覚悟も必要だし、行政の農林のバックアップも実はすごく必要。

事務局：わかりにくくなっており、根幹は農林にあったが、そこには受け入れ団体や地域振興の部分があり、もうひとつは観光であり、その3つが一体となってやらないとうまくいかない。もめているところもあるが、そろそろ腹をくくらないといけないと思っている。

部会長：主な取り組みの3番の田舎体験や地域プログラムとあるが、これはやると宣言しているのか。

事務局：もともと都市と地域間交流の推進についてはいまの計画にあったかとは思いますが、なぜ改めてここで書くのかというと、特に旧鳳鳴小学校での鳳鳴山里会のイベントが非常に盛り上がっており、これは建物を中心した都市との連携を中心に記載しているが、建物とツーリズムでない受け入れ団体さえしっかりしておれば都会との交流はいつでもできるという体制にもっていきたいというところである。

部会長：結構行政の中でももみ合いになってしまうので、うまくやらないと難しいかと思う。施策1についてはどうか。

事務局：多文化共生はいまどの自治体も本気で取り組まないといけない時代になってきている。受け入れ側の気持ちの醸成というか、抵抗を取り除いていかないと、人口減少も進む中で、労働力の確保としても取り組んでいかないといけないと思う。

～事務局から資料説明～

委員：ジオパークイコール石灰岩なのか。記述がないが。

事務局：市の解釈では石灰岩だけではございません。

委員：読んだ限り読み取れない。

事務局：特段、秋吉台の記述はしていないかと。当然ジオパークは美祢市全体を指しているわけだが、それを汲み取れるような文言をどこか追加したいと思う。黒白赤とか書くのは。

部会長：それは情緒的な話なので。エリアの話であるかと。ジオパーク自体の概念が美祢市全体なので。

委員：9ページの取組4に、民俗資料館などがあるので、そこに黒などが入ってくるかと思う。博物館といっても研究施設的な意味合いと観光にも関わる展示館的な意味と、2つ同時に作るというのは難しいところがあると思う。観光を考えれば、入館すれば秋吉台のことがわかるような、そういった充実した、観光客がみて醍醐味があるような展示館を作って頂きたい。ここで博物館の充実というと、学芸員の人たちと、観光からみるのはたぶん希望するものは違ってくると思う。たぶん今の博物館におられる方のイメージは研究施設としての博物館で、もしかするとたくさん人がくるのは望んでいない可能性もある。ただ、観光側から見るとキラーコンテンツになり得るものかと思うので、この博物館の問題は何年もあるが非常に重要で、地域の観光を見据えた場合は大きな項目になるかと思う。

事務局：田中会長とも協議する機会があったが、こちらの基本理念での方針をご承認頂いたところ。博物館機能の充実をいま4番にしているが、田中会長のご意見からいとなぜ1番にもってこないのかというようなご意見になるかと思う。それとその魅力の拡大と創出の部分で、博物館を生かしていこうということで、事務局も所管課もそういう気持ちがあるので、交流を拡大して、活用を図っていくというような記述に変更していけたらと思う。

委員：博物館機能の充実を図っていくというふうに書かれているのは、民俗資料、歴史資料も含めて、それらを市民の意識と理解を深めるために、としか記載していないので、ここで石炭やらまったく触れてないがどうするのかと聞いている。

事務局：冒頭説明したように、できるだけ簡潔明瞭な文章にしたいと言いながら、ここは書きすぎかと思うので、すべて取れるような表現に修正する。

部会長：あと一点気になるのは、保護と活用と書いているが、どうしても保護の方が勝っちゃう。

事務局：所管によって考えが分かれるが、保護だけでは美祢市の発信はできないので。

部会長：保護していても、人はいなくなってしまう自然だけ残る、その状況が怖い。保護はすぐ書かれているが、活用のところがあまり伝わってこない。ジオツーリズムの推進と書いてあるが、ジオツーリズムの推進が活用かというところと少し違う気がする。

委員：伊佐の場合は、結局資料は保存されたまま。

事務局：公開されていない。

委員：イメージとして一つ印象に残っているのが、学術と観光の振興の集約のところで言えば、普賢岳の記念博物館のようにわかりやすく伝わってくるのが大切ではないかと思う。

部会長：やっているところが尖っていないと。思い切ったところで、強い意志でやらないと、なかなか活用にはならないと思う。

部会長：大きな中で尖ったものにしないと、なにも尖らないと思う。世間にインパクトを与えられるか、それが活用かと思う。その活用というのがジオツーリズムの推進とさらっとなっている。ジオツーリズムの推進といっても規制の範囲のものなので。思い切ったものが活用か。強い意志が入らないと活用にならないのではと思う。

委員：保護でまずいのは、厳守主義者というか、一切触ってはならないというパターンの自然保護はよくないと思う。積極的に人が関わって保護していこうという、ある程度人が保護でも関わっていかないといけない。一つの考え方で、保護をしていくと観光にも繋がっていく、積極的に関わることで売り物を磨くことにもなるので。

事務局：活用という言葉が盛り込んだというお話については、施策表のところで、2番の魅力の創出・拡大のところで、一番下に自然・文化の保護と活用というのがあり、右ページの魅力の創出・交流の拡大に、芸術と文化の振興、文化財の保護と活用というのがある。これまでの第1次総合計画の基本計画には、ほとんどが人の育成に含まれていたものがある。今まで人の育成の中にあっただけのものをこのたび、観光部門の方にもってきたという市の新しい方向性として組み込んだもの。ここに盛り込むだけでも活用と同じように、市の方向性として、ただ単なる保護ということではないというところを考えている。

部会長：自然ははずれてしまうのか。

事務局：自然は、自然環境の保全と、ジオパークの推進のところ。

部会長：ジオツーリズムと一言で書くと活用になっているのかという気がする。

事務局：いい文言があれば、またご提案いただければ。

委員：保護することが活用になるという話があるが、メディアにのってしまえば全国からくると思う。

委員：博物館に期待したい。学芸員さんは地域の保護に関する研究はされていると思うが、市の職員の方とは思うが、できればそういった部分も頑張ってもらってほしい。自然保護的なものを研究テーマにぜひ。

委員：秋吉台の保護は、具体的には何をすれば保護になるのかはわからない。

委員：よく美祢市はお抱えの研究者がいらっしゃる。最終的に活用に繋がる研究をぜひして頂きたい。

部会長：どうまとめるかというのは難しい。

～事務局から資料説明～

委員：今の特産物は、産地ブランドの競争が激化している。実質は、品質重視になっている。担い手確保も大事だが、品質向上の支援が一つあってほしいと思う。生産量が減っていくのは間違いないため、質を底上げするようなことがないと厳しいと思う。実質、単体では難しいので、特徴のある農業法人というのをいれておかないといけないと思う。食と観光はすごくリンクしていると思うので、食との関連しているものが入っている方がより良いのではないかと思う。

事務局：20ページに記載している。

委員：担い手のところで、実質農業に従事できる人が高齢化して減ってきている。うちのでも人員が地元で確保できない中で、若い人たちを地区外から呼び込んでいる。問題なのは受け入れる場合の環境整備。来るにしてもある程度の賃金が受け取れないと、なかなか来てくれない。そういうシステムを組んでいかないといけない。

部会長：担い手の方の待遇は競争になる。なにか飛び抜けていないと、美祢に来る理由がない。

委員：確保なのか育成なのか分からないが、人を育てていかないと。

部会長：そこがうまくリンクする施策があればいい。

委員：農「業」なので稼げる状態でないと。

委員：三大特産物はもう脱皮した方がいいのかと思う。

部会長：取組のところに本市の恵まれた特産物とあるがこれは本当に恵まれているのか。何か新しいものを開発していくとか。

委員：手前味噌だが、子牛の生産とか和牛生産のボリュームが大きくなってきている。

委員：美祢牛というブランドもない。やるべきと思う。

事務局：JAに出荷している関係で、山口県産で取り込まれてしまう。この問題を解決できれば、美祢牛ブランドは作れる。

部会長：取組の方向性は絶対間違っていない。

事務局：生産は落ち込んでいるが地域ブランドにはなっている。全国にも名は通っているかと思う。

部会長：整理すると、書きっぷりのところで、戦略的なことが書いてある方がいいかと。方向性はこれでいいが、担い手の確保というのが市として本気でどうやってやるのかというのが他の地域と変わらないように思う。ブランド化というものもどうするのかきっちり

決めて行かないといけない。

委員：何かを仕掛けをやらないといけない。

委員：13ページ、取組のところに森林作業網の整備とあるが、作業網というのは、路網整備の方がいいかと思う。作業網は場所を意味するのか、インフラ整備の道路を意味しているのか。道路の方であれば、路網整備とかの方がいいかと思う。せっかくなので、われわれも潤沢にお金がないので、基金事業に取り組むときにプロポーザルをする。秋吉台があれば通るので、それはブランドである。もしいま林業でやりたいと思うなら、針葉樹だけでなく広葉樹もあり。秋吉台ブランドのしいたけがうまくできればIターンを狙えると考えている。

～事務局から資料説明～

委員：15ページの4のところにある新産業とはなにか。

部会長：ベンチャーのことか。

事務局：ベンチャーの方かと思う。ビジネスマッチングで新たな産業を見出してやるとか。

部会長：発掘して、起こさせるということか。連れてくるのか。

事務局：どちらかという、起こさせるという意味合いで書いているかと思う。

部会長：ハードルが高い気がする。

委員：ベンチャーの方が分かりやすいかと思う。

事務局：わかりました。

委員：担い手の確保とのところで、市で人を雇うのは厳しいところ。市外に出ていくことが多いので、地元の企業に就職してこない。この辺の確保に向けて、若者を美祢市に住んでもらうという施策があればいいかと思う。

部会長：定住させるためにはどうするかという根幹の問題かと思う。

委員：せっかく来てくれた人が住みやすい環境整備がいる。

部会長：商業も工業も同じかと思う。そこでどう尖られるかが課題。

委員：担い手の確保のところで、今の跡継ぎがないから、やめていくということがある。経営的に悪くはないのにいないからやめていくというのが結構ある。この辺を具体的にになにか盛り込んだらもう少しインパクトがあって企業が存続することに繋がるのかと思う。

事務局：事業承継の動きは全国的な動きと解釈している。美祢市は山口県央連携中央都市圏というものに入っており、母体が宇部市と山口市であり、本当にこの事業承継に真剣に取り組まないと倒れていくという中で、後継者をそのまま事業承継を、金融を含めて支援していくという手立てもある。それだけではなく、外部人材を入れてくるという事業承継もいま進めている。

委員：担い手の確保や事業継承がいたるところに出てくるが。

事務局：課でも指摘があったが、しかたないと思っている。

委員：事業継承については具体的にどうやっていくのか示す方がいいと思う。

委員：担い手育成は全部の業界で共通している。縦割りでやっていたら効率が悪い。

部会長：基本方針のレベルで増やすという感じか。

委員：今日は意見を出して、あとはいいように。

～事務局から資料説明～

部会長：農業商工業、いままで話した中で、観光と観光周遊だけ浮き出した形か。

事務局：いままでの形では観光産業を観光の中に組み込んでいたが、観光産業はあくまでも産業という考えで、産業を一体的に進行していこうという考え方で観光産業をここへ組み入れた。

委員：産業の振興と地域内経済の活性化ということで、どちらにしてもひっかかるのは観光従事者。観光に関連するいろいろあると思うが、それらが元気にならん以上は地域活性化にはつながらない。

事務局：魅力産業や地域内経済の活性化ということはやはり観光を中心として一次から三次産業、六次産業までがつながっていく、また食、土産品、ミネコレクションの開発を通じて全産業が通じて地域内の経済がうまく循環していくという意味合いでつけている。

委員：ブランドとしては磨かないといけない。方法はここに書いてあるようにブラッシュアップ含めてやっていかないといけない。

事務局：農産物のブランドにしても従来のものから発展していない。六次産業においてもブランド基準がないことから訴えるものがいまいちないという状態。

委員：いまでもブランド戦略はパッケージや見てくれを気にしていて、質実剛健さがなくなっているところがある。そこをぐっと強化すれば、産品でももっと実の部分があがれば十分戦えるのではないか。

事務局：最近美祢市でもやっとパッケージデザインがやっとブラッシュアップされて他市に並んできた。全国どこもパッケージが良くなってきてまた戦えなくなっている。やはり中身で勝負する時代になってきている。

委員：かえって見た目がいいと、食べる時のハードルがあがる。もともとのブランドで、質というところもこの中に入れられたらと思う。ミシュランもそれを含めて観光にくるとかそれを食べに来るとかというところに持って行けたら一番と思う。そうなれば収益も上がり、後継者問題も解決できる。担い手も増えると思う。ブランドは価値の創出だと思うので製造原価からプラスして利益がでるところの価値創出だと思う。観光地というところはすごくアドバンテージで観光に来たときはお金を使いたがる。

部会長：2のブランド化の推進と強化の文章がよくわからない。

委員：淡水魚のなんの記述がなかった気がするが、どこかにあるのか。水産業とあるから聞いている。海がないからあきらめるのではなく、淡水魚も結構良い。世界の冷凍食品はほとんど淡水魚。海の魚は骨が多いので使いにくい。

委員：ソウルフード系をやっていたかと思う。B級グルメ系。

委員：邑南町はB級ではなくA級で勝負している。安くてもいいから素材に関しては一級品をもってくるというのがブランド産品が生きてくると思う。そこには質というのが重要なキーになってくる。ブランド力じゃなくて、品質向上とかおいしさを追求するとすればブランド力になってくるのでは。

事務局：ご意見を基に記述を改める。

(2) 第二次美祢市総合戦略観光産業部会（素案）について

～事務局から資料説明～

事務局：説明漏れたが、総合戦略は基本計画のなかでも特段、人口減少を抜書きして取組はもっと具体的にしている。

委員：K P I を思い切った、さっき言っていたような問題をかなり具体的なものになっているが。

事務局：こちらは基本計画は目標指標なのであくまでも5年後の到達点を取り上げるものだと解釈している。こちらはK P I で進捗管理を厳しくできるということで組み立てている。

部会長：そこの整合性がよくわからない。

事務局：K P I はまだ途中なので、できるだけ指標についてはご意見は次回にさせていただければと思う。

委員：集落営農法人を株式会社化と書いてあるが、経営というのを意識して株式会社としているのか。4ページのK P I のところ。

事務局：これは事務局の勘違いかもしれないが、秋芳地域で合同の農業集落地域の合同化というものを意識している。

委員：これは法人を束ねてその上に株式会社をつくる。単独の法人があって株式会社がかって貸し付けをするみたいな感じ。要は株式会社は法人の補完的な役割をするものであって、これから農業法人が進化していけばたぶん株式会社になってくる。どうしても法人では仲良しクラブで経営が難しくなってくる。今、3とあるのは美東、秋芳、旧美祢市それぞれ1つずつとしている。秋芳はもできている、これから美東と旧美祢市ができるのではないか。

部会長：ちょっと議論が飛んだので。意見が出にくいと思うので、想うところあれば個別に事務局の方に連絡する形でよろしいか。こちらの方で一旦締めたいと思う。

4 閉会

～事務局のあいさつ～